

平成 31 年度「教育委員会 年度始めの式」教育長訓示

H31.4.1

本日、間もなく、「平成」に代わる新元号が政府から発表されるという歴史的な瞬間が迫ってまいりました。

新たに教育委員会事務局へ着任された方々、ご参集いただいた皆さん、本年度もどうぞよろしく願いいたします。

さて、先ほど行われました安曇野市年度始めの式では、新たな試みがありました。もうお気づきのことですが、「市歌斉唱」がありました。「初めて市の職員となる皆さんを歓迎したい」という所管部の発案だとお聞きしています。

ご存知のとおり、安曇野市政施行 10 周年を記念して、平成 27 年 10 月 2 日に「安曇野市歌 水と緑と光の郷」が安曇野市の市の歌として制定されました。以来、小中学校や市のさまざまな行事で歌う機会も増えてきましたが、まだまだ市民に浸透しているとは言えない状況です。

そのような中で思い出されるのは、生涯学習課が所管する今年の成人式です。これまでの式典冒頭に位置付けた「安曇野市歌斉唱」は、今の新成人にとっては馴染みが薄く、盛り上がり欠けていたことが一つの課題でした。このことも含め、成人式のあり方を見直し始めたのは、ちょうど 1 年前でした。

以来、課内はもとより、部内連絡会や定例教育委員会でも何度も検討を重ね、たどり着いたのが、「市内中学校の合唱部の生徒たちに出演してもらおう」という新企画でした。担当者が学校へ足を運んで調整を図り、当日は、三郷中学校合唱部が、先輩である新成人を 2 曲の歌でお祝いすることになったのです。合唱部の生徒たちが選んだ「365 日の紙飛行機」の歌に乗せて「人生は紙飛行…その距離を 競うより どう飛んだか どこを飛んだか それが一番大切なんだ さあ心のままに…飛んでいけ！ 飛んでみよう！」

—この後輩たちからのメッセージは、新成人ばかりではなく、会場の来賓の方々の気持ちを高めてくれたように私には感じました。続く「安曇野市歌」は、「このふるさと安曇野を忘れるな！ 戻って来いよ！」という思いが込められた大合唱となりました。私は、この時の感動が忘れられません。

人間一人の力は大したものはありませんが、集まれば、少し大げさですが“岩をも動かす”力になると信じます。働き方改革、事業の見直し等課題山積ですが、「仕事に誇りと自信を持ちチームで取り組む」「知恵とずくと汗を惜しまない」を合言葉に、私も一緒に頑張ります。

最後に、皆さんが 1 年間健康であることを祈念し、教育委員会職員として求められるモラルや規範意識を常に高めることを期待し、年度始めの挨拶といたします。

(教育長 橋渡勝也)